

SPT - OCT , 1985
No. 130-131

HOSHIKUZU



内之浦見学

永井剛

熊本博物館では、来年3月にハレー彗星を迎えての特別展を開く予定です。その展示会には、ロケットやプラネットA（すいせい）の模型を展示したいので、いつかは宇宙科学研究所にお願いに行かねばと思っていました。

ところで、熊本県民天文台長の宮本さんは、2月に東京で開かれたプラネタリウム研修会に参加された際、講師として来られた宇宙科学研究所の的川泰宣先生にお会いしていました。的川先生はロケット博士で、「ハレー彗星の科学」の著者ですから、ご存知の方も多いでしょう。その的川先生から宮本さんに、『今、内之浦に来ていますよ。』とのご連絡をいただいたのが7月上旬です。運よく博物館は7月11日から15日まで休館日です。この時とばかり、7月12日に内之浦へ走ることにしました。いつもながら、宮本さんの車に、地図見役として優乗させていただきました。

内之浦は近いから、すぐ帰ってこれるね！と、うちの娘は言いまいた（家の裏）が、勿論、実は大変な道のりでした。前おきが長くなりましたが、とにかく内之浦に着き、先づ荷物を調べて、シマッタ！と声をあげました。忘れ物です。ビデオデッキにテープが入っていないのです。こんな町（失礼！）では、とても手に入らないのでは？と思いましたが、意外に近い所に電気屋さんがあり、ビデオテープもあったのです。しかも、一番よく使っているテープが……。

7月12日の夜は、宇宙科学研究所の方々が分宿しておられる中の一つで、「福乃家」という旅館に泊めてもらい、夕食も一緒に、的川先生のほか大勢のロケットなどの専門家にお会いしました。明けて7月13日。いよいよ、鹿児島宇宙空間観測所に入ります。展望所で見る全景の広さに、まずびっくりしました。今まででは、写真で一部分を見ただけだったからです。いくつもの山に分散した、パラボラアンテナなどを含む観測施設の数々。全く驚きました。

案内して下さったのは、的川先生と前田行雄先生（天ガ10月号に記事があります）で、一ヶ月後にプラネットA（あとで「すいせい」と命名）打上げを控えて、大変お忙しい中、所内をくまなく、それも長時間、昼食をご馳走になったりしながら、見学させていただきました。

特に印象に残ったのは、ロケット組立てテストの場面で、その頂上部にはプラネットAの実物大模型が入っていました。そのほかロケット発射台、各種ロケットの実物大模型、それから、資料センター（無人）、50センチのシュミットカメラなどなどです。

最後に借用したい収蔵品や展示物などのお願いをして、内之浦をあとにしましたが、大勢の方々に親切にしていただき、大変楽しい、そして実りの多い2日間の旅だったと、感謝しています。

REPORT 三周年記念特別講演会

渡辺 知史

初めまして。熊大天文研究会の渡辺です。今回、Mr. くるみ氏より講演会について何か書くようにとの御達しがありこの記事を書くこととなりました。なにぶん、私は子供の頃から文を作る、という行為がひどく苦手でありまして、未だにあまり上達していませんので、乱文・稚文が目立つでしょうがどうか御容赦下さい。

実は、私がこの“熊本県民天文台開設三周年記念特別講演会『ようこそハレーすい星』”と言う 31 文字もの長い名称の講演会があることを知ったのは、なんと、七月の運営委員会の時であったといふ。であります。故にそれ以前の事柄を私は全く知りません。そこでそのことは省かせていただきまして、七月の運営委員会のことから入って行きたいと思います。

七月から運営委員会の回数が増え、ひと月に二回となりました。大半はハレー彗星のせいなのですが、七月に限りこの講演会が主体となりました。もっともこれもその名称からわかるようにハレー彗星と大いに関係があるのですが……。

さて、二回の運営委員会で何をしたかを講演会のことについて書きますと、まず、受付やスライドなどの各係の決定、荷物の運搬やアンケートに関する事、又、84cmテロ速遠鏡の案内ハガキの事、そして当日会場で配付した星屑特別号に関する事でした。この星屑特別号は通常の星屑とはかなりその趣を異にしています。どういう処が異なるかと言いますと、まず一目見てわかるのがその紙質と印刷です。普通の星屑は熊大の印刷機を用いて刷るために、字はところどころかすれ、写真などはとても印刷することはできないため生写真を同封しなければならないのですが、特別号では滑らかな手ざわりの上質紙に文字や写真がはっきりと印刷されているのです。それもそのはずで、これはきちんと業者に発注して印刷してもらった文字どうりの「特別号」なのです。しかも、この号が「特別」なのはこの点だけではありません。「特別」号では高くついた費用を賄うため、この号に限り広告を載せることで資金を調達しているのです。そういう訳で、この号にはNTTを始め十社以上の広告が載りましたが、これらのスポンサーを集めるのは時間がなかったせいもあり、非常に大変だった様子でした。

講演会当日の七月二十九日・月曜、私達の「はたしてお客様は来るのだろうか?」という危惧をよそに、六時半の開場を待たずに六時頃よりお客様が入り始めました。受付では、来客全員に星屑特別号とアンケート、それにハレー彗星テレホン情報の宣伝カードを、天文台の会員の方にはその他に

天文台特製ループタイ(注・これをまだもらっていない方は天文台に来るともらいます。)を配付していました。この時、七時から九時までといひ比較的遅い時間の講演会であった割に、かなり制服姿の学生が多かったことを覚えています。

初めのうちはアンケートをその場で書いてもらっていましたが、そのため受付付近がひどく混雑してしまい、お客様の流れが悪くなってしまいました。そこで、開演時間がせまったこともあります。途中から講演会が終了してから出していただくことにしました。アンケートに関してはこの様に不手際があり、また、回収の方法などを十分に考慮していなかった面があったために、回収作業が不十分で、約五百の来客数の半分も回収できず、結局回収できたのは約百八十足らずでした。

大ホール内では、スライドや壇上での準備、各非常口の確認等を行ったあと、会場側より非常口の付近に非常時にお客様を誘導するための人員を配してほしいとの要望があったので、講演中暇な人が会場の四隅に陣りました。

七時五分、艶島さんの司会で開演となりました。この時に、講演会にみえた方は正面左端で手話通訳が行われていたのにお気付きになったでしょうか。この講演会では耳の不自由な方にもぜひ来ていただこうと言うことで、ボランティアの方にお願いして手話通訳を行っていただきました。

さて、艶島さんの開演の辞に次いで、副台長の永井先生、常任理事の渡辺先生の挨拶があり、その後、いよいよ当講演会の主役、日本一の台長こと宮本先生の登場となりました。宮本先生の講演は天文台の事から始まり、彗星とは何か、ハレー彗星とは何か?ということ、世界各国が行うハレー観測のための各種の観測機器や惑星間探査機について、又、今回のハレーの観測条件などについてスライドを上映しながらわかりやすく話されました。

そのあと、熊本県民天文台の入会等の説明があり、最後は会場に来られた方からの質問を受ける質問会で締め括りました。この時予定では最初に何人かのサクラに質問をさせ、それを呼び水として多数の質問を受けるはずだったのですが、宮本先生の講演でさんスライドを全部は上映出来ずに切り上げた程に時間が足りなくなってしまったため、熊大天研の優秀なる新人!希望の星!の森君と松崎君という二人のサクラからの素晴らしい質問を受けただけで終わりました。

この後、受付の場所を大ホール入口の正面に移動させて、アンケートの回収や案内ハガキの受付、入会の申し込みや会費の納入を行い、数名の新会員を得ました。

講演会終了後、荷物を抱えたスタッフ一同は閉店間際の交通センターホテル3Fの喫茶店にすべり込み、閉店時間を多少遅らせたあと解散しました。

“すいせい”は彗星へ

Y. MIYAMOTO

(1) 打ち上げ延期：『モシモシ、宇宙研の前田ですが、こちら内之浦は天気が悪：打ち上げが一応明後日に延びました、でも明後日つまり18日に必ず打てるというのではありませんので、そのつもりでおいで下さい』とのTELを受けたのは8月16日(金)であった。前田さんは宇宙空間観測所のスタッフで、所内唯一のアマチュア天文家でもある。ジャワ日食の際は、例の太陽の環を発見したカメラを釣り上げたバルーンのスタッフであった。

17日(土)に打てないとわかったので、今夜(16日)は片野坂君にTELして、ゆっくり寝ることにしよう。片野坂君は今年3月熊大理学部を卒業し、鹿児島県志布志で中学の先生をしている。そして勿論熊本県民天文台の会員である。彗星課で“星屑”にも時折り記事を送ってくれるのでご存知の方も多かろう。彼には数日間の宿を御願いしていた。

内之浦は小さな漁港で、旅館や民宿も少ないので、プラネットA打ち上げの2週間位い前からスタッフや下請け企業の人達で宿は満杯となる。7月に申込んでもこの日に泊めてくれる部屋等全くないのである。

普段朝に弱い私も17日(土)は朝6時半にとび起きた。COFFEEで目を覚し、御船インターからの高速道で“バッチャリ”と目が開いた。人吉を通過し、ループ橋を通り、カナディアンでパンとコーヒーをとる。えびの、から再び高速道に入って都城へ。あとは7月に行った記憶と地図を頼りに志布志町に着いたのが1時すぎであった。スタンドでガノリンを補給しているうちに片野坂君が元気な顔で迎えて呉れた。彼の家はスタンドのすぐ近くにある。

一寸気のきいたレストランで中食をとり、鹿屋市に帰省中の松下太君と落ち合う。私の小さなスター・レットに3人乗車して内之浦へと急いだ。今度は地元のガイドつきだから道の心配はない。

宇宙空間観測所のゲートで守衛さんと交渉していると、いきなり車が停まり前田さんが手を振っている。「さあどうぞ！ 宮本さんみたいだったので」と……。彼の車の後について坂道を登りコントロールセンターに着く。すぐ隣りの棟にあるテレメーターセンターに案内されて、「暫く待って下さい。18日に打てるか？ どうかの会議です」とのこと。

7月には居なかった女の子がコーヒーでもいれましょうか？といってくれる。勿論お願いである。会議が終ったのか、前田さんに続いて事務主任の渡会実雄さんが入って来られた。と同時にスピーカーから“明18日の打ち上げは一応19日に延期”との声が流れた。スピーカーを指さして、渡会(わたらい)さんは、「……ですよ！」と言う。氏とは7月にお会いしているので一応お顔を

知っている程度だが、なごやかでまことに親切、好人物である。

「富田先生がシュミット室で待っているそうだけど行ってみますか？」と前田さん。テレメータ室を出て総務室へ。宇宙研の管理部で企画法規係長をしている中原氏と会い、博物館で来春催す予定の「ハレー展」についての相談をする。富田先生との約束の時間が近づいている。大急ぎに車をとばし、くねくねと曲った山道を登ると、そこにシュミット室と、60cmグレゴリーのドームがある。

「ようこそ！よく来ましたね！」富田弘一郎先生は元気そのものである。シュミット室ではNIKONの係の人が4名程でシュミットカメラの修理、調整をしていたが、富田先生はテキバキと指示を与えて居られた。 ϕ 50cmのC.Pを見せていただいたら、露出けのエアー吹き出しのメカを見せていただいたらして、see again tomorrowと山を降りた。

志布志の片野坂君の家では“にぎり寿司”とビールで夜は更ける。

8月18日(日)おせい朝はパンとコーヒー、それに昨夜の寿司の残りを食べて3人で仲良く出発。観測所の資料館で展示物を再確認し、コントロールセンターへ。「明日上げられますよ！」と前田さんは緊張した顔である。的川泰宣先生も、伊藤先生も平静の中にピーンと張った空気が流れているのだろう。ニコやかな顔が時折りピシッとなる。

「僕達は今夜11時からここにつめていますので、もうお会い出来ません。明朝の打ち上げは8時33分ですから、その2時間前に道路をすべて斜断します。それで、その前にシュミット室のところへ入って下さい。若し係員にチェックされたら前田に言ってある」と言えば通して呉れます」と至れり尽くせりの配慮をして下さる。この忙しい最中に申し訳ないと思う。

再度シュミット室に富田先生を訪ね、グレゴリーの室も見せて貰う。ここでは数年前にお会いした宮崎大学の高岸先生が架台のバランス調整で大奮闘であった。以前は高橋製の特注品15cm屈折カイド鏡をつけてあったが8インチのシュミットカセ(セレストロン)に交換中だったのである。それにCCDを電子冷却して22magまで写せると話して居られ、そのメカも殆んど先生の自作らしい。富田先生も自らモンキースパンナや針金を握ってバランス調整にご協力である。今までつい、ああだ、こうだと口を出すしまつ。プラネットAの打ち上げは寸時忘れて望遠鏡談議に華が咲く。この山中に、すごい先生が二人もいるのだ。シュミット室に帰ると竹内博士が来て居られた。元種ヶ島の宇宙開発事業団に居られた先生である。丁寧にご挨拶をして再び志布志へ。

夕食はゴージャスな雰囲気のレストランで海の幸。今夜は快晴。ひと風呂浴びて早く寝よう。窓越しに星の煌めきが美しい。私達の早寝は夜の12時、2時に起きると2時間は眠れる計算。

ねむたい目をこすり乍ら、それでもとにかくget up。顔を洗っても、ひげを剃っても目が覚

めない。濃い目のcoffeeを2杯飲んで何とか正気になった。パンをかじって内の浦へ。

志布志の街中で6等星が見えていたのに、時折り雲が走る。観測所の正門前を通過しシュミット室の方向へ少し進むと、一寸した広場がある。遙々と照明されたミューロケット整備塔は静まりかえっている。その緊張しきった静かなムードを写真に撮りたいと思って車を停め、ゴソゴソと三脚を立てていたらパトカーに注意された。この場所での観望はいけませんと言うのである。勿論シュミット台地で見ますと答えてOKとなる。シュミット台地の入口はもう既に繩をはってある。係の人に前田さんの話しをしたら、連絡がついていて、「ご苦労さんです」と愛想よく通して呉れた。

シュミット室の前庭に着いたのは3時半頃であったろうか？ 東からオリオンが昇っていた。白鳥はゴルゴダの十字架、銀河はカシオペアへと漫く流れている。ペルセの中にジャコビニ・ツインナーを探す。固定カメラで何コマかを撮る。

「お早うございます。」と薄明がやっと始まる頃、富田先生の声にビックリ。

シュミット室に入り、先生自ら朝のCoffeeを入れて下さる。申し訳ない。「松下君、コーヒーを入れなさいよ！」と言えば、先生は「お客様は座ってなさい」と、もうニコニコ顔である。

だが何と！ 戸外に出て見ればいやな雲が押し寄せてくる。又駄目か？ 私の休日は今日でタイムリミットなのだ。

気象観測用のバルーンが1時間おきに放球される。小雨が落ちる。雲が飛ぶ。三脚を立て、T S 65ミリフローライトの直焦点にNIKON、F3のボディーをつける。ピントを合せるのだが、何故か焦点がボケている。私の眼も、もうダメなのかと思う。予定通り6時33分にランチャーがセットされた。打ち上げ上下角78.8度と放送される。又雨が降る。折角セットされたランチャーは静かに格納されてしまった やはりダメか！。

“この雨はあと25分であります”と力強い放送である。つめかけた来賓も一喜一憂である。海上保安庁の十管本部長、鈴木氏は私のレンズにハンカチをかけて呉れた。こちらはまだ小雨。

外人も交えて大勢の客で黒山の人。三脚の先端を何度も蹴とばされた。

ランチャーは再びセットされた。明け染めた空にミュー3SⅡ型2号機の雄姿がある。秒読み始まる。私の脈搏も早い。撮れるかな？と自分を疑う。モードラの調子が何となく普段と違っている感じ。困ったな！ でも今となっては運を天に委すより他にない。

5, 4, 3, 2, 1, 一瞬白煙が拡がる。シャッターを切る。一枚は確かに手答えがあった。あのシャッター音が聞こえない。ロケットの轟音もない。客の声一つない。

白煙がオレンヂ色に変りズズーンと上昇。みるみるうちに空高く昇るロケットはやがて天頂近くへさしかかる。モードラをあきらめて手動に切り替えたが、重たい500ミリのフローライトでは、

とても追い写し不能となってしまった。ガックリきた私の耳に発射時のすさまじい轟音がひびいた。ふと我にかえり、「お目出とうございます！」富田先生と堅い握手を交した。

まわりでもスタッフの方々が涙の握手であった。私もこれで良かったのだと思う。ミスの集積は宝のノウハウなのだ。自分に言いきかせ、元気を出して、先生方にご挨拶をして山を降りた。

志布志で、世話になった片野坂、松下両君にわかれを告げて一路熊本へと車を飛ばした。ねむたいなあ！事故でも起こしたら博物館はクビだ！冬のプラネのプログラム、ハレー彗星の特別プログラム、それにハレー展、もっと大切なハレー彗星の撮影、オーストラリアの下見旅行、スケジュールはギッシリ。事故はダメだとハンドルを握り直して気は確か！

9月7日、前田さんからの手紙が届いた。発射時の素晴らしい写真である。プラネットAは“すいせい”と命名されて、予定の軌道に投入された。発射4日後の軌道修正も不要となり、“すいせい”は“ハレー彗星”へとまっしぐらに進んでいる。9月7日現在地球より500万kmのところを順調に飛しょうし、9月2日にはジャコビニ・ツインナー彗星の撮影に成功した。（UVIカメラによる）と結んでいた。前田さんの友情に感謝して筆を擱く。

自己紹介

森 秀樹

初めまして。今度（言っても7月の末ごろから）天文台に入会させてもらいました森です。今年、熊本大学に無事合格（因に所属は理学部地学科です。）しました。そして熊大天文研究会に入りまして活動に参加して時々県民天文台の方へも行って星などを見せてもらっています。

それではここでほんの少し天文歴（と言えるかどうか分りませんが）を書きたいと思います。宇宙に興味をもち始めたのは小学校に入るか入らないかという時だったと思います。そして小学5年の時に御年玉で4cmの屈折望遠鏡を買って星を見ていたのですがあまり長続きはしませんでした。それから中学から高校といたした活動はやっていません（このどこが天文歴なんだ！）が強いて言えば学校の帰り（部活のため帰る時にはいつも空には星が瞬いていた）に我が家に続く坂道を自転車を押して登りながら星を眺めたことが唯一のそれかも知れません。この唯一の活動の中で一つだけあまり人が見たことがない（と思っているのですが‥）物を見たのです。それはあの火球なのです。その時の詳しい描写をしたいのですが、原稿のマスの数が残り少ないのでまたの機会にしたいと思います。それではこれで自己紹介を終らせていただきます。

★九州第一号！★

県民天文台では、去る8月25日に31cm級望遠鏡で、九州で初めて、全国で5例目のハレー彗星の撮影に成功しました。確認に成功したのは、宮本氏・艶島氏・小林昌樹氏の3氏で8月25日、26日に撮影した写真より、約0.14°東に移動したハレー彗星を確認しました。



1985年8月25日 03時53分45秒～04時23分45秒 30分露出
31cm反射直焦点 トライX(6×7)
撮影：宮本、艶島、小林

★天文台日誌より★

- 9/ 2 晴れたら空でも見ようかと思って来たら... 空は元気一杯曇りで、ピカッピカッと雷が光り輝いていた。 (永原)
- 9/ 7 21時直前にNHKより来台。ハレー彗星とジャコビニ・シンナー彗星について、ビデオにIIをつけ、撮影の模様をテレビカメラに収める。 (永井)
- 9/14 ジャコさんはαとδの間にあり、なつかしい位置.... (小林J)
- 9/16 きょうは、久しぶりに山本さんが出て来られました。男の子の名前は泰斗君と命名さ

れたそうです。おめでとうございます。 (渡辺)

・9/18 夕方の快曇(?)のせいでしょうか、18時45分頃には三日月と木星が見えるので天文台へ来ましたが、その後雲がうすれて、星は見えているがだれもこない。帰りたいけど星は見えている・・・・帰りたいけど・・・・・・・・20:35分、もうだれも来ないでしょう。
帰ります・・・ (艶島)

☆編集後記☆

遅れてどうもすみません。先月出さなければならなかった130号が出せず、今月の131号も遅れてしまい、今回、130号と131号の合併号とすることになりました。合併号なので、もう少しページ数を増やすべきなのですが、記事が不足しているので、どうもすみません。

さて、朝晩は、かなり冷え込むようになりましたが、星空の方は、澄みきり絶好の天体観測のシーズンがやってきました。みなさんが、最も楽しみにしているのは何といってもやはり、ハレー彗星でしょう。ハレー彗星も太陽にどんどん近づいてきて、しだいに明るさを増し、いよいよ11月中旬以後は、小口径の望遠鏡や双眼鏡でも見えるようになってくると思います。会員の方の中で、もう何人かは、ハレー彗星を見られた方もいると思います。見られてない方も、天文台に来られて76年ぶりに帰って来るハレー彗星の姿を思いっきり楽しんで下さい。

ところで、12月10日にチロ望遠鏡が、熊本にやってきます。詳細につきましては、後日連絡しますので、ふるっておいで下さい。

※ 三周年記念講演会に来られてない方には、今回、星屑特別号を同封しています。

(YOSHIDA)

熊本県民天文台「星屑」 1985年9、10月号 通巻第130、131号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町

Tel 096428-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本博物館内

Tel 096-324-3500

編集担当 FUKUOKA/YOSHIDA/YOSHINO